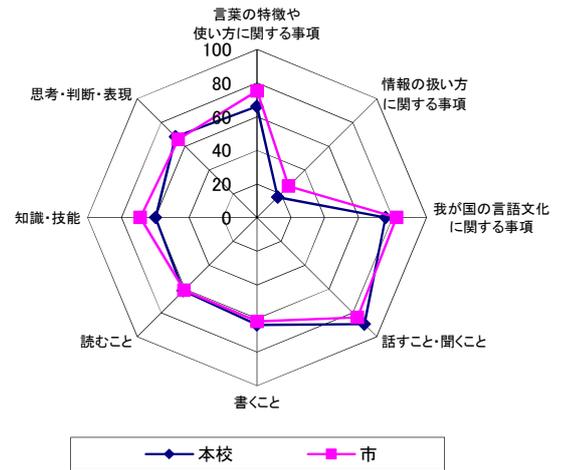


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	17.2	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	75.9	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	89.7	83.9	84.2
	書くこと	63.8	61.7	64.5
	読むこと	61.5	60.9	61.0
観点別	知識・技能	59.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	68.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

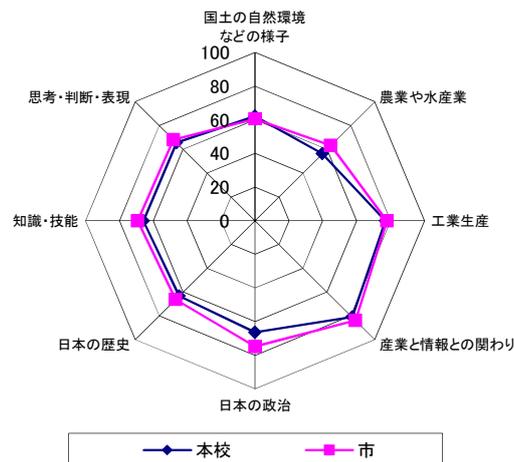
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「帰宅」の読みの問題は、96.6%と高い正答率であった。 ●市の平均正答率より9.2ポイント下回っている。特に「停車」「営む」の書き取りは、それぞれ20.7%、34.5%とかなり低い。 ●漢字を読む問題では、ほとんど市の正答率を下回っており、漢字や言葉の問題を苦手としている児童が多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りは、5年生の配当漢字から出題されている。繰り返し復習させることで定着を図っていく必要がある。
情報の扱い方に関する事項	●市の平均正答率より9.3ポイント下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題は、正答率が6.9%で、全26問の中で最も低くなっている。	・長文やいくつかの資料を読んで、内容を簡潔にまとめる問題が出題されており、読み取りの力や書く力が必要となる。日頃から文章を読んだり書いたりすることに慣れ親しむような学習環境づくりに努めていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	●市の平均正答率より6.5ポイント下回っているが、7割5分以上の児童ができていた。この領域の問題は1問だけとなっている。和語、漢語、外来語について出題されている。	・和語、漢語、外来語については、由来やその区別について5年生のときに学習している。継続的に復習させ、語句の由来に関心をもったり、和語、漢語、外来語について理解したりできるようにしたい。
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率より5.8ポイント上回っている。特に、話を聞いて内容を捉える問題では、9.3ポイント上回りよくできていた。	・相手の話を聞いて内容を的確に捉えることは、授業中だけでなく日常生活の中でも大切なことである。普段から、相手の話を最後までよく聞く習慣付けを図っていく。
書くこと	○市の平均正答率より2.1ポイント上回っている。 ●目的に応じて文章を書く問題での校内正答率が27.6%とかなり低くなっている。	・自分の考えを書く活動を継続して行い、様々な条件に対応して書く力を育てていきたい。 ・国語の学習だけでなく、他の教科の学習でも、資料から読み取ったことなどについて書く活動を取り入れ、書く力の育成を図っていく。
読むこと	○市の平均正答率をわずかではあるが0.6ポイント上回っている。 ●物語の読み取りと説明文の読み取りを比べると、説明文の読み取りの方が正答率が低くなっている。	・段落や文章全体の構成を考えながら読むことを意識させ、説明文の内容を理解する力を伸ばしていく。 ・引き続き朝の読書の時間の確保や、教材文と同じジャンルや内容、構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章に触れる機会を設定していく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.1	60.5	65.8
	農業や水産業	56.3	63.3	66.0
	工業生産	77.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	81.0	83.8	76.6
	日本の政治	66.4	74.9	74.1
観点別	日本の歴史	63.4	66.3	68.3
	知識・技能	65.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	65.5	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

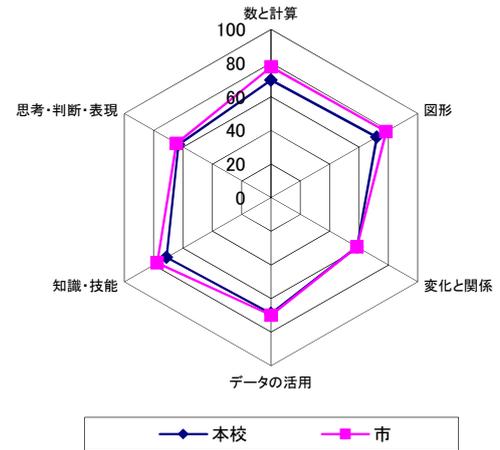
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の平均正答率より1.6ポイント上回っている。「季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る」問題では、市の平均正答率を6.7ポイント上回った。 ●「森林を守るための間伐について」の問題では、市の平均正答率を6.8ポイント下回った。「間伐」という言葉の意味の理解が未定着であった。	・栃木県は海が近くにならないこともあり、日本周辺の海洋名のイメージがつきにくい可能性がある。そのため、今後も授業中に地図帳に触れる機会を増やし、国土の広がりや山脈、海洋、河川等への興味・関心が高まるよう指導していく。また、社会科特有の言葉の意味を捉えることができるようにする。
農業や水産業	●市の平均正答率より7.0ポイント下回っている。「輸入などの外国との関わりにおける課題について」の問題では、市の平均正答率を5.1ポイント下回った。 ●「日本の主な食料の自給率について」の問題では、市の平均正答率を5.3ポイント下回った。「品種改良」を行う目的の理解が不十分であった。	・「品種改良」や「食料自給率」などの言葉の意味や目的をおさえ、グラフから各品目を読み取ることができるようにする。
工業生産	○「自動車の製造工程」の問題では、市の平均正答率を2.9ポイント上回った。 ●市の平均正答率を0.9ポイント下回っている。「自動車の部品を再利用する目的について」の問題では、市の平均正答率を4.1ポイント下回った。部品の再利用の目的の理解が不十分であった。	・「自動車の部品を再利用する目的について」の問題では、全国の平均正答率も2.1ポイントと若干下回ったため、再利用する目的について理解を深め、限られた資源との関連付けを図っていく。
産業と情報との関わり	○「産業における情報活用の現状について」の問題では、市の平均正答率を1.1ポイント上回った。 ●市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。「情報の発信と受信の注意点について」の問題では、市の平均正答率を6.7ポイント下回った。自分がインターネットを使用するときの注意点の理解が不十分であった。	・今後も情報化社会の仕組みや、私たちの生活の中で情報がどのように生かされているのか考え、様々な情報の中から正しい情報選択と注意点をおさえ、上手な情報活用の仕方が大切であることを指導していく。
日本の政治	○「基本的な人権の尊重の基本的な考え方について」の問題では、市の平均正答率を1.5ポイント上回った。 ●市の平均正答率を8.5ポイント下回っている。「議会政治について、資料をもとに考え、表現する」問題では、市の平均正答率を15.1ポイント下回った。記述式ということ、また「しんちょう」という言葉の意味の理解が不十分であった。	・記述式の問題では、市や全国の平均正答率を大きく下回っていることから、普段の授業でグラフや図などの資料の活用と読み取りの指導を進めていく。また、記述式の問題にも慣れるよう、日頃から自分の考えや分かったことなどを短文にまとめる指導に努める。
日本の歴史	○「大和朝廷による統一について」の問題では、市の平均正答率を13.3ポイント上回った。 ●市の平均正答率を2.9ポイント下回っている。「雪舟について」の問題では、市の平均正答率を12.2ポイント下回った。資料(水墨画)を見て、描いた人物名を答えることが難しかった。	・今後もデジタル教科書や一人一台端末等を活用して課題解決に取り組み、さらに年表を活用しながら各時代の中心人物や出来事について整理するなど、指導の手立てを工夫していきたい。また、歴史に関わるミニクイズなどを授業や朝の会、帰りの会等で出題し、興味・関心をもてるようにしていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.9	77.7	78.6
	図形	72.1	78.4	74.4
	変化と関係	58.6	58.7	53.0
	データの活用	69.0	69.9	57.2
観点別	知識・技能	71.2	77.5	74.0
	思考・判断・表現	63.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

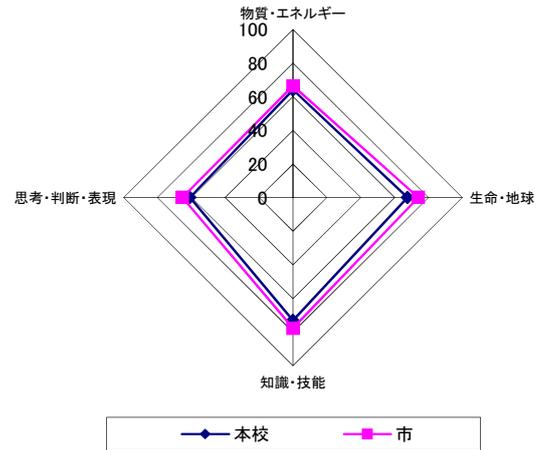
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○図を使って、小数の乗法の文章問題に合った式を立てる問題では、市の平均正答率を下回ったが、校内正答率は80%を上回った。</p> <p>●市の平均正答率より、7.8ポイント下回っている。比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を13.7ポイント下回った。</p>	<p>・立式に至るまでの過程を数直線や図、言葉で表現できるよう類似問題や文章問題に取り組み、問題の読み取りを強めることで定着を図る。</p>
図形	<p>○対称な図形の性質を理解しているかの問題では、市の平均正答率を下回っているが、校内正答率は89.7%と他の問題に比べると、正答率が高かった。</p> <p>●市の平均正答率より、6.3ポイント下回っている。2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、市の平均正答率を15.5ポイント下回った。</p>	<p>・問題を読み取り、おおよその見通しを立てたうえで、筋道を立てる学習の仕方を身につけさせていくことで定着を図る。</p>
変化と関係	<p>○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題では、校内正答率が69.0%と市の平均正答率を14.1ポイント上回った。</p> <p>●市の平均正答率より、0.1ポイント下回っている。百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を11.7ポイント下回った。</p>	<p>・一つ一つの知識・理解はあるが、問題の意図を理解し、関連付けることが苦手なため、自分の考えだけでなく、数直線や図を使った複数の考えを通して、深めていくことで定着を図る。</p>
データの活用	<p>○表から平均を求める問題では、校内正答率が89.7%と市の平均正答率を3.9ポイント上回った。</p> <p>●市の平均正答率より、0.9ポイント下回っている。ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する問題では、市の平均正答率を6.7ポイント下回った。</p>	<p>・正答を導き出す知識はあるが、自分の考えを文章に表す力が乏しいため、普段の授業においても立式だけでなく、文章として自分の言葉をノートに表すことを通して、説明力を定着させていきたい。また、他教科においてもグラフや資料を見て、自分の考えを説明する力を培っていきたい。</p>

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.0	66.5	66.3
	生命・地球	67.6	74.0	72.6
観点別	知識・技能	73.0	77.6	78.2
	思考・判断・表現	60.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●平均正答率は、市より2.5ポイント下回った。特に、「電流のはたらき」の電磁石の性質をもとにおもちゃの車が走るようにする改善方法を記述する問題では、平均正答率が市より17.3ポイント下回り、無回答が37.9パーセントで、電磁石の問題や記述問題への課題が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験では、全員が実験器具に触れ操作できるようにしていきたい。 ・記述問題に慣れるように、日頃から実験結果や自分の考えを文章にまとめる練習をする。
生命・地球	●平均正答率は、市より6.4ポイント下回った。特に、「植物のつくりとはたらき」のくきを縦に切ったときの断面のようすを選択する問題では21.4ポイント、「月と太陽」の太陽と月の位置関係から月の形の見え方の違いを円卓する問題では18.6ポイント下回り、基礎的な問題の定着が不十分だった。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本が定着するよう、繰り返しプリント等で復習する機会を設けたい。 ・学習のまとめの際には、図や自分の言葉でまとめたりグループで話し合ったりして考えさせる機会を設けたい。

宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	・児童が「知りたい」「解決したい」という探究的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「勉強が好きか」という問いの肯定割合がほとんどの学年で市の肯定割合を上回った。しかし、学年が上がるにつれて、肯定割合が低くなっていた。 ・「学習していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある」という質問の肯定回答は3学年で平均並みか、それ以上であった。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、市の平均と比べると、ほとんどの学年で平均を下回っていた。 ・3年生以上の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の問いについての肯定割合はほとんどの学年で市の肯定的割合を上回っていた。
基礎的・基本的な学習内容の定着のための工夫	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、定期的にステップアップテストを実施したりして、学習内容の定着を図っている。	(6年生の調査から) ・4教科の基礎問題では、どの教科も市の平均を下回った。 ・国語では言葉や言語について、算数では、図形や計算の問題で正答率がやや低くなっていた。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。 ・学校が休みの日に「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・宿題の提出に関する問いの肯定割合は、市と比べると平均を下回っており、学年が上がるにつれて低くなっている。 ・「家で本や新聞を読んでいる」の質問では、4学年で市の肯定割合を上回り、下学年ほど読んでいる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習に対する取組について、児童の学習意欲について課題が見られる。成功体験を充実させて自己肯定感を高めるとともに、学んだことを使えば「解決できる」と思えるような課題を設定したり、「解決したい」と思えるような課題提示の仕方を工夫したりして、学習意欲が高まるようにしていく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、自分の考えをしっかりと持つために考える視点をはっきりさせたり、時間を確保したりして、一人一人が自信をもって発信し、全体で考えを深められるよう、さらに効果的な話合いの方法を考えていく。
- ・基礎的・基本的な学習内容の定着のために、朝の学習の時間には、担任以外の職員と連携して、より効果的な時間となるよう取組を見直していく。
- ・家庭学習の充実と習慣化のために「進んで学習している」と感じられるよう、効果的な自主学習を家庭に発信したり、児童の実態に合った宿題を担任間で共有したりして、宿題を含めた家庭学習を充実させる。
- ・「家読」の時間を週末に設定したり、親子読書を推進したりして家庭での読書の習慣化を図る。